

令和7年度 教育評価(教職員による自己評価)

経営の実際

重点	重点努力事項	具体的実践項目	I	II	「学期との比較」	平均項目学の 重点期	平均項目学の 重点期
自ら学ぶ力(自ら学び)	(1)学びの環境づくり	①学習規律の徹底と学びの構えづくり	3.1	3.6	◎	自ら学ぶ力(自ら学び)	○
		②ICTの積極的な活用	3.3	3.9	◎		
	(2)わかる授業づくり	①基礎的・基本的事項の確実な定着	3.3	3.4	○		
		②個に応じた指導・支援の工夫	3.5	3.7	○		
	(3)学びの習慣づくり	①家庭学習の習慣化	3.4	3.7	○		
		②読書習慣の育成	3.5	3.3	▽		
	(4)子どもが主体となって活躍する場づくり	①適切な課題の設定	3.3	3.3			
		②子どもの活動時間の保障	3.5	3.6	○	3.3	3.6
関わり合う力(心豊かに)	(1)人権同和教育の推進	①人権尊重の視点に立った教育指導	3.5	3.6	○	関わり合う力(心豊かに)	○
		②自己有用感、自己肯定感を育む取組の実施	3.3	3.3			
	(2)道徳並びに特別活動の充実	①心に響く道徳の授業づくり	3.1	3.1			
		②集団活動をとおした望ましい人間関係づくり	3.1	3.4	○		
	(3)特別支援教育の充実	①個々の気質や特性に応じた指導・支援の推進	3.3	3.4	○		
		②個別の支援計画、指導計画の作成と実行	3.0	3.1	○		
	(4)人、物、事とのふれあいをとおした体験活動の推進	①地域素材や資源、人材の積極的活用	3.4	3.4			
		②事前・事後学習の充実	3.3	3.3		3.2	3.3
やるぬく力(たくましく)	(1)基本的生活習慣の定着	①ハ代スピリッツ(あいさつ・聞き方・そろえ方)の推進	3.1	3.4	○	やるぬく力(たくましく)	○
		②基本的事項の日常化(返事、言葉遣い、整理整頓等)	3.3	3.2	▽		
	(2)体力の向上	①スポーツテスト結果の活用	3.0	3.1	○		
		②運動への興味・関心を高める取組の工夫	3.0	3.2	○		
	(3)保健、食育指導の充実	①担任・養護教諭・栄養教諭による連携した健康教育の推進	3.4	3.6	○		
		②家庭と連携した取組の推進	3.3	3.6	○		
	(4)安全教育の徹底	①登下校を含めた日常的な安全指導の徹底	3.3	3.1	▽		
		②避難訓練等、災害安全指導の徹底	3.5	3.7	○	3.2	3.4
連携教育の充実	(1)地域とともにある学校づくり	①学校HP、学校だより、学級通信等による情報発信	3.3	3.3		連携教育の充実	○
		②学校運営協議会や地域・PTAと連携した教育活動の推進	3.1	3.3	○		
	(2)小中一貫・連携教育及び保小中の連携の推進	①小中一貫・連携教育の推進	3.0	3.3	○		
		②東陽町保小中連携指導計画に沿った実践・交流活動の推進	3.0	3.4	◎	3.1	3.3
環境の整備	(1)校舎内外の環境整備	①美しく整えられた環境づくり	3.4	3.7	○	環境の整備	○
		②安全点検の確実な実施と迅速な事後措置	3.4	3.7	○		
	(2)不祥事防止と危機管理	①自分事としての課題意識と定期的研修の実施	3.4	3.3	▽		
		②問題事案等への適切な対応	3.4	3.4			
	(3)働き方改革の推進	①業務改善や同僚性のある業務遂行	2.9	3.2	○		
		②ワークライフバランス意識の高揚を図る取組の推進	3.1	3.1		3.3	3.3

(評価) 4 できている 3 おおむねできている 2 あまりできていない 1 できていない

□ 2学期、学校総体で重点的に取り組んだ具体的実践項目の評価について

	具体的実践項目についての評価の内容	評価
①	学習の決まり(ルール)について話し合いの時間を設け、決まったことを掲示し、定期的にふり返っているか。	3.2
②	学級や学校の問題を解決するために、学級活動の時間を中心として、定期的(月に一、二度)に話し合い活動を行ってきたか。	3.1
③	八代スピリッツをさらに推進するために、1階廊下の壁に掲示されているシートの活用を進めるように働きかけたか。また、定期的に掲示物を見に行ったり、書いてある内容を紹介したりしてきたか。	3.2

○記述面から見えてきた成果と課題について

- ◇ 学習リーダーを中心とした授業で、ポイントを絞った指導ができた。
 - ◇ グーグルクラスルームのスプレッドシートやキャンバを使って、新聞作りなどを行い、操作方法が随分と身についてきた。
 - ◇ 連携教育の充実で、今年度は学童職員の学習サポートをお願いした。
 - ◇ 子どもの趣向を満たす時間の確保を図ることで、学習への意欲や学校生活への満足感を維持する。
 - ◇ 縦割り班を活用した遊びや協働学習、掃除などが、高学年の自己肯定感を高め、東陽小集団としての意識の高まりが見られる。5,6年生のようになりたいとあこがれられる姿をめざす。
 - ◇ ICTの活用が図られていた。体験学習が充実していた。あいさつがよくなつた。復命書が簡易になりよかつた。
 - ◇ コミュニケーションスキルの向上のために活用しているカードゲームは、自己有用感を高める取組にもなつた。学習シートは、スプレットシートを活用するといいかも。
- ◆ 個別の支援計画を作成するが、なかなか個別に支援できる授業体制が整わない。個人差が大きく、後回しどとなってしまった点が反省点である。3学期は、個別に支援が必要な児童を中心に教材作りや授業展開を行ったり、グループで支え合えるような授業形態の確立に向けて取り組んでいきたい。